

U7章 形容詞の時間表現

形容詞の時間表現について説明します。

U7.1 形容詞の時間関係表現は2種類…事象と質 (76)

A:「時のみ表現」=事象を表す形容詞

B:「無時相表現」=質を表す形容詞

U7.2 形容詞が**事象**を表す場合 (78)

上のAを扱います。

表U7-6 事象を表す修飾節形容詞の絶対・相対時表 (80)

U7.3 形容詞が**質**を表す場合 (82)

上のBを扱います。

U7.4 名詞を修飾する場合の形容詞のイとタ (84)

名詞修飾節の中の形容詞です。

形容詞にも相対時表現があります。

名詞を修飾する場合にも、上のAとBの違いがあります。

「激しかった雨がやんだ」と「*激しかった雨が降った」の違い

[コラムU5] 学習者の誤用 ①激しかった雨 ②多い雨 (86)

U7-1 形容詞の時間関係表現は2種類…事象と質

動詞なら4種類の時間表現ができる

C10.3, T4章

動詞は4種類の時間表現ができます。(T4章参照)

表U7-1 動詞の時間表現4種類

	時	相	動詞例
(1) 有時相表現	○	○	きのう本を <u>読んでいた</u> 。(過去・局面②)
(2) 時のみ表現	○	×	きのう本を <u>読んだ</u> 。(過去)
(3) 相のみ表現	×	○	きのう本を <u>読んでいる</u> 。(局面②)
(4) 無時相表現	×	×	きのう本を <u>読む</u> 。

表U7-2 動詞の時間表現4種類(上表)の図表現

(1) 有時相表現	(2) 時のみ表現	(3) 相のみ表現	(4) 無時相表現
きのう <u>読んでいた</u>	きのう <u>読んだ</u>	きのう <u>読んでいる</u>	きのう <u>読む</u>

形容詞は局面が表示できない

形容詞だけでは局面表示ができません。

形容詞の局面を表示するためには動詞「なる」を使わねばなりません。



図U7-1 「高くなる」の局面図

- 局面① 開始 円が高くなる (円が高くなり始める)
- 局面② 進行中 円がどんどん高くなっている
- 局面③ 完了 円が高くなった
- 局面④ 結果状態継続中 円が高くなっている
- 局面⑤ 結果状態消滅 円が高くなってい終わる(≒安くなる)(局面③も)
- 局面⑥ 記憶継続中 当時は円が高くなっている

動詞「なる」を使用するのは、形容詞(高い)の局面を形容詞が直接表示できないので、動詞「なる」の局面表示を借りるということを意味します。

問U7-1 形容詞に時表現はありますか。相表現はありますか。

形容詞の時間関係表現は2種類だけ…事象と質

局面表示がないので。A15章

形容詞は単独では局面表示ができませんので、形容詞の時間表現は「相」(局面表示)の要素を除いた2種類になります。「(2)時のみ表現」と「(4)無時相表現」です。

表U7-3 形容詞の時間表現は2種類 (左ページの動詞の場合と比較)

	時	相	形容詞例
(1) 有時相表現	⊖	⊖	(なし)
(2) 時のみ表現	○	×	(現在・未来)円が高い。/(過去)円が高かった。
(3) 相のみ表現	≠	⊖	(なし)
(4) 無時相表現	×	×	(質として)円は高い。

表U7-4 形容詞の時間表現2種類(上表)の図示

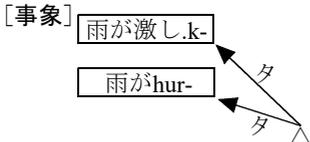
(1) 有時相表現	(2) 時のみ表現	(3) 相のみ表現	(4) 無時相表現
—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">高い</div> 	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">高い</div> 
—	円が高かった	—	円は高い

事象

質

U7.2 形容詞が事象を表す場合

「(2) 時のみ表現」を「形容詞が事象を表す場合」として捉え、U7.2節で扱います。たとえば、
 「1年で最も激しかった雨が降った。」
 というとき、形容詞「激しい」は事象を表すものとして使用されています。「雨が激しかった」

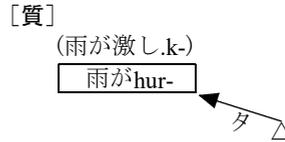


図U7-2 激しかった雨が降った

※「雨が激しかった」は絶対テ・過去です。

U7.3 形容詞が質を表す場合

「(4) 無時相表現」を「形容詞が質を表す場合」として捉え、U7.3節で扱います。たとえば、
 「1年で最も激しい雨が降った。」
 というとき、形容詞「激しい」は質を表すものとして使用されています。「雨が激しい」図では()内に表示。



図U7-3 激しい雨が降った

問U7-2 上に示された形容詞の2種類の時間関係表現を例で示してください。

U7.2 形容詞が事象を表す場合

A15.3

形容詞が事象を表す場合の図示では、形容詞を事象の枠 の中に示します。

a) 事象を表す形容詞が主文にある場合

忙し.k-



図U7-4 昨日忙しかった

忙し.k-



図U7-5 今忙しい

忙し.k-



図U7-6 明日忙しい

主文は常に絶対時表示なので、形容詞は上のような図示になります。

b) 事象を表す形容詞が名詞を修飾する場合

絶対時表示と相対時表示

「忙しい人がいた」「忙しかった人がいた」で例を示します。この例では主文の「人がいる i-」は過去に置いてありますので「いた」になっています。もちろん現在や未来に置くこともできます。(表U7-6 参照)

表U7-5 修飾節の形容詞「忙し.k-」が事象を表すときの時間的位置関係の例

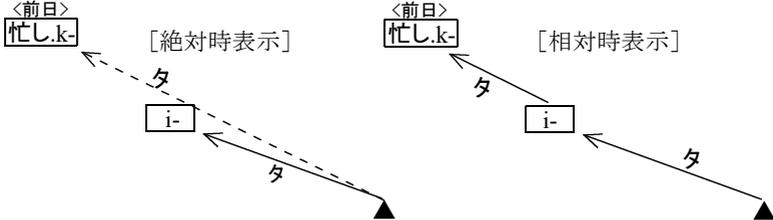
「忙しい人」「忙しかった人」	
図中の①②③はそれぞれ同じ時間的位置関係にあります。	
「忙し.k-」を絶対時で表示	「忙し.k-」を相対時で表示
<p>① <前日> 忙し.k- ② <当日> 忙し.k- ③ <翌日> 忙し.k-</p> <p>↓ ↓ ↓</p> <p>タ タ タ</p> <p>i-</p> <p>↓</p> <p>タ</p>	<p>① <前日> 忙し.k- ② <当日> 忙し.k- ③ <翌日> 忙し.k-</p> <p>↓ ↓ ↓</p> <p>イ イ</p> <p>i-</p> <p>↓</p> <p>タ</p>
図U7-7 修飾節を絶対時で表示	図U7-8 修飾節を相対時で表示

次のページで図中の①②③のそれぞれについて説明します。

- 問U7-3 「当日は前日忙しかった人が3人いた。」は表U7-6のどれにあたりますか。
 問U7-4 「きのう忙しかった人はあす帰る。」は表U7-6のどれにあたりますか。
 問U7-5 「あす忙しい人はあさって休む。」は表U7-6のどれにあたりますか。
 問U7-6 「あす忙しかった人はあさって休む。」は表U7-6のどれにあたりますか。
 問U7-7 「あさって忙しい人はあす休む。」は表U7-6のどれにあたりますか。

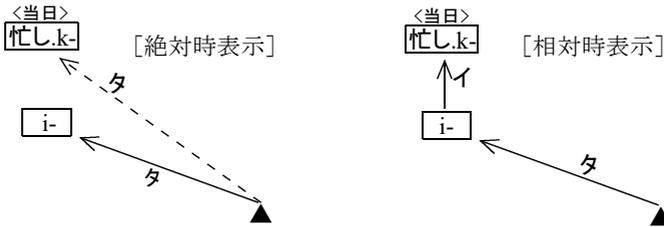
左ページの表中の①②③のそれぞれについて述べます。

- ① 修飾節事象(忙し.k-)が主文事象(いる)より前に生起 (表U7-6のB1Z, B1S)
絶対時表現(忙しかった)も相対時表現(忙しかった)も同じ表現になります。



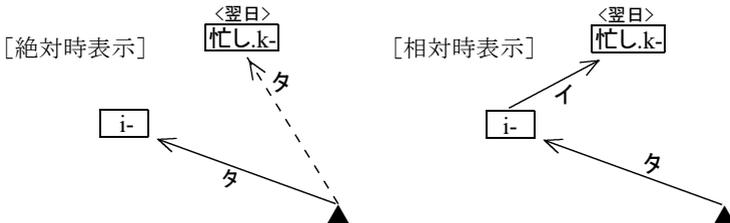
図U7-9 当日は前日忙しかった人がいた = 図U7-10 当日は前日忙しかった人がいた

- ② 修飾節事象(忙し.k-)が主文事象(いる)と同時に生起 (表U7-6のAZ, AS)
絶対時表現(忙しかった)と相対時表現(忙しい)では異なる表現になります。



図U7-11 当日忙しかった人がいた。 ≠ 図U7-12 当日忙しい人がいた。

- ③ 修飾節事象(忙し.k-)が主文事象(いる)より後に生起 (表U7-6のB2Z, B2S)
絶対時表現(忙しかった)と相対時表現(忙しい)では異なる表現になります。



図U7-13 当日は翌日忙しかった人がいた。 ≠ 図U7-14 当日は翌日忙しい人がいた。

事象を表す修飾節形容詞の、絶対・相対時のあり方

事象を表す形容詞の修飾節でのあり方を一覧表にして次ページに示します。

表U7-6 事象を表す修飾節形容詞の絶対・相対時表 ①は修飾節形容詞, ②は主文

		①・②の両方が過去		一方が現在	①・②が現在
		A	B	C	D
①が先に生起	絶対時・1Z	<p>1 激しかった風で 2 波が荒かった</p>	<p>1 先週忙しかった彼が 2 昨日は暇だった</p>	<p>1 先週高かった円が 2 今日は安い</p>	<p>1 激しい風で 2 波が荒い</p>
	相対時・1S	<p>1 激しい風で 2 波が荒かった</p>	<p>1 先週忙しかった彼が 2 昨日は暇だった</p>	<p>1 先週高かった円が 2 今日は安い</p>	<p>1 激しい風で 2 波が荒い</p>
①・②同時	絶対・Z	<p>若かった彼は 勇ましかった</p>	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> Z: 「絶対時」の略 S: 「相対時」の略 </div>		<p>おいしいパンが 安い</p>
	相対・S	<p>若い彼は 勇ましかった</p>			<p>おいしいパンが 安い</p>
②が先に生起	絶対時・2Z	<p>1 波が荒かった海は 2 風が強かった</p>	<p>1 昨日高かった円は 2 先週安かった</p>	<p>1 今高い円も 2 先週は安かった</p>	<p>1 波が荒い海は 2 風が強い</p>
	相対時・2S	<p>1 波が荒い海は 2 風が強かった</p>	<p>1 翌日高い円は 2 先週安かった</p>	<p>1 今高い円も 2 先週は安かった</p>	<p>1 波が荒い海は 2 風が強い</p>

※ 過去の以後(B-2S,C-2S), 未来の以前(F-1S, G-1S)等は今後の精査が必要です。

U7章 形容詞の時間表現

- ・太枠部分の[F1Z, F1S]の組など6組は絶対時，相対時のいずれかで表現したかが分かります。他の組では絶対時，相対時の表現が同じになっています。

①・②が未来・過去	一方が現在	①・②の両方が未来	
E	F	G	H
<p>1忙しかった彼も 2来週は暇だ</p>	<p>1今忙しい彼も 2来週は暇だ</p>	<p>1来週忙しい彼も 2さ来週は暇だ</p>	<p>1風が激しい海は 2波が荒い</p>
<p>1忙しかった彼も 2来週は暇だ</p>	<p>1今忙しかった彼も 2来週は暇だ</p>	<p>1前週忙しかった彼も 2さ来週は暇だ</p>	<p>1風が激しい海は 2波が荒い</p>
			<p>1赤い石が 2高い</p>
			<p>1赤い石が 2高い</p>
<p>1来週忙しい彼も 2昨日は暇だった</p>	<p>1来週忙しい彼も 2今は暇だ</p>	<p>1来週忙しい彼も 2明日は暇だ</p>	<p>1波が荒い海は 2風が激しい</p>
<p>1翌週忙しい彼も 2昨日は暇だった</p>	<p>1来週忙しい彼も 2今は暇だ</p>	<p>1翌週忙しい彼も 2明日は暇だ</p>	<p>1波が荒い海は 2風が激しい</p>

T3.5の動詞の「絶対・相対時相表」も参照してください。

U7.3 形容詞が質を表す場合

「(4) 無時相表現」を扱います。

A15.4

形容詞が質を表す場合は常にイ形です。()で図示します。

a) 質を表す形容詞が主文にある場合

質を表す形容詞が主文にある場合、主文を()の中に入れます。発話時点と無関係なので発話時点との関係を矢印で示しません。

(雪の₁は白.k-i)

▲
発話時点

図U7-15 雪の₁は白い……質を表す形容詞が主文にある

b) 質を表す形容詞が修飾節にある場合

質を表す形容詞が名詞を修飾する場合は事象の上の()の中に入れます。

(雨が激し.k-)

雨がhur-



この例の主文は過去・事象

図U7-16 激しい雨が降った……質を表す形容詞が名詞を修飾する

修飾節にある形容詞が(無時相で)質を表していても、主文は無時相でない場合もあります。上例では主文は「雨が降った」で、「過去・事象」の表現になっています。

主文が「現在・進行中」、「未来・事象」の例も示しておきます。

(雨が激し.k-)

雨がhur-



主文は現在・進行中

図U7-17 激しい雨が降っている

(雨が激し.k-)

雨がhur-



主文は未来・事象

図U7-18 激しい雨が降る

質を表す形容詞が修飾節にある場合を改めて一覧表にすれば次ページの表のようになります。

問U7-8 「おもしろい／おもしろかった映画を見た。」のどちらも言えますか。

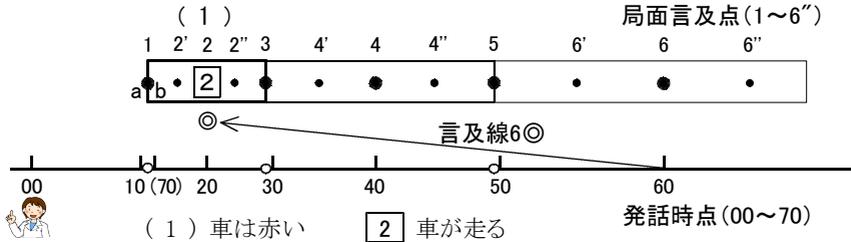
問U7-9 「若い田中さんはそれに気づかなかった。」の「若い」を説明してください。

問U7-10 上の「若い」を「若かった」にすることはできますか。

表U7-7 質を表す形容詞が修飾節にある場合 (1)は修飾節形容詞, 2は主文

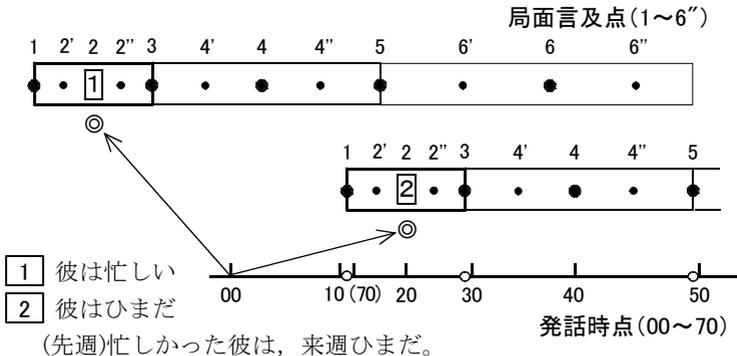
2の時相	過去・事象	現在・進行中	未来・事象
図示	(1) 2	(1) 2	(1) 2
例	赤い車が走った	赤い車が走っている	赤い車が走る
下図言及線	例 6◎	22	0◎

上の表中の「下図言及線」というのは、次のような時相基本モデル(図T1-30)を用いて2桁数で示したものです。「赤い車が走った」の例)



図U7-19 質を表す形容詞を時相基本モデル(2桁時相図)で示す

ちなみに、事象を表す形容詞が修飾節にある場合の時相基本モデルは次のように示すことができます。例としてE1Zの場合を掲げます(表U7-6参照)。



(先週)忙しかった彼は、来週ひまだ。

図U7-20 事象を表す形容詞を時相基本モデル(2桁時相図)で示す

※ただし、形容詞の場合は、局面4や局面6などを表現することがないので、上の2つの図のような時相基本モデルはふつう使用することはありません。

U7.4: 名詞を修飾する場合の形容詞のイとタ

従属節の形容詞

A15.5

名詞を修飾する場合のイとタ

形容詞が名詞を修飾する場合はイカタの形しかありません。下表に見るように多くの場合はイになります。タになるのは事象として修飾するときの絶対時「過去」か、相対時「以前」の場合のみです(表U7-6参照)。

表U7-8 名詞を修飾する場合の形容詞のイ形とタ形

質として修飾		(過去)			(現在)			(未来)		
		イ								
		激しい雨								
事象として修飾	絶対時	過去			現在			未来		
		タ			イ					
		激しかった雨			激しい雨					
	相対時	以前	同時	以後	以前	同時	以後	以前	同時	以後
		タ	イ	タ	イ	タ	イ	タ	イ	イ
た雨		激しい雨	た雨	激しい雨	た雨	激しい雨	た雨	激しい雨	激しい雨	

それで次のようにいうことができます。

イで修飾の場合

(1) 激しい雨が降った。／激しい雨が降っている。／激しい雨が降る。

イによる修飾は基本的には質としての修飾ですが、上表から分かるように、絶対時の非過去(現在と未来)、相対時の同時や以後の可能性もあります。

タで修飾の場合

(2)? 激しかった雨が降った。

「雨が激しい」と「雨が降る」は同時のはずですから、質か同時のイによる修飾が自然です。これをタ修飾にするためには、「激しかった」が絶対時の特別の過去であることを示す情報が必要です。次の[]内のような情報を添えます。

(3) [その年でいちばん]激しかった雨が降った。(過去の事象)

(4) [とうもろこしを打ち倒すほど]激しかった雨が降った。(過去の事象)
このようにすれば「激しかった」が過去の特別の(表現する特殊性のある)一事象であることがはっきりして、文として自然に感じられるようになります。

次例では「雨が激しい」と「雨がやむ」の間に時差(時の分化)があるので、形容詞が質ではなく事象を表していることが明白です。それで自然に感じられます。

(5) 激しかった雨がやんだ。(「やんだ」=過去, 「激しかった」=以前, B1Z, B1S)

問U7-11 「その日は激しかった雨が降った。」はなぜ不自然なのですか。

形容詞に相対時表現はあるか

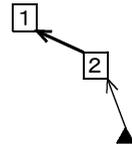
表U7-6は、動詞にならって、形容詞も事象を表す場合は相対時表現があるものとして表にしたものです。しかし、形容詞に本当に相対時表現はあるのでしょうか。表中にはすべての場合に一応例文を示しておきました。

次のように言うことができる場合は相対時表現が成立していると考えられますが、いかがでしょうか。(B1Sなどの記号は表中の位置を示しています。)

[B1S] (聞いて)おもしろかった話を、覚えました。



[1] の事象: 話がおもしろい



図U7-21 B1S

[B2S] 後年はなまめかしい彼女も、当時は子どもでした。



[1] の事象: 彼女がなまめかしい



図U7-22 B2S

[G1S] (味をみて)一番おいしかったお茶を言ってください。



[1] の事象: お茶がおいしい

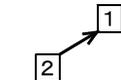


図U7-23 G1S

[G2S] 翌週は赤い花も、当日はまだつぼみです。



[1] の事象: 花が赤い

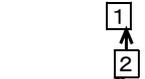


図U7-24 G2S

[H1S] 今晚美しい花火が楽しめます。



[1] の事象: 花火が美しい



図U7-25 H1S

問U7-12 上の5例のうち、絶対時表現にすると変化するものはどれですか。

問U7-13 上の5例を事象としてではなく、質として表現してください。

コラムU5

A15.6

学習者の誤用① - *激しかった雨が降った-

[時の分化]

表U7-6 を見てください。38のますの中に事象 [1] と [2] の時間関係が示されています。事象 [1] は形容詞の示す事象です。[2] は形容詞とは限りません。この事象 [1] と事象 [2] が時間的にまったく重なっていることを「時の分化がない」といいます。時間的に重なっている部分のあることを「時の分化が一部ある」といい、重なっていないことを「時の分化がある」といいます。

[時の分化のないとき]

時の分化のないのはAとDとHの組の [1] と [2] の「同時」の場合です。Dの組は「現在」、Hの組は「未来」ですから、絶対時表現でも相対時表現でも「激しい雨が降った」のように「イの形」になります。形容詞は「イの形」で「質」も表しますので、「イの形」では自然に聞こえ、問題を起こしません。

Aの組は「過去」を表すので、絶対時表現では「激しかった雨が降った」のように「タの形」になります。問題なのは、「激しかった雨が降った」はふつうおかしい表現と捉えられることです。日本語の形容詞では、「同時」の場合は「激しい雨が降った」のように「質」が「相対時表現」で表すことが優先されます。

それで、「同時」のとき「タの形」を使用すると、「必要もないのにタの形を使っている」と感じられます。これを避けるために、それが絶対時・過去の表現が必要な特別な事象であることを示す情報が必要です。本書p.84も参照してください。

日本語母語話者はこのことを直感的に了解していますが、日本語学習者の場合はそうではありません。特に英語話者のように従属節でも絶対時表現を用いる母語を持つ学習者は、当然のこととして「激しかった雨が降った」と言います。

[時の分化のあるとき]

時の分化のあるときはほとんど問題がありません。時が分化しているということは、形容詞が「質」ではなく「事象」を表しているということが明白なので、絶対時表現も相対時表現も許容できるからです。

[学習者の誤用]

それで、つまり、学習者の誤用が起こり得るのは、「過去」を表すAの組の [1] と [2] が同時に生起するときに、[1] の事象を絶対時の「タ」で表現する場合(AZの場合)であるということが出来ます。

問U7-14 「激しかった雨がやんだ」という表現は自然ですか。説明してください。

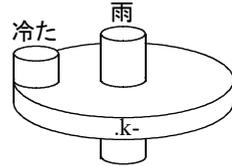
学習者の誤用② - * 多い雨が降った -

【「冷たい」の必要要素】

形容詞「冷たい」の必要要素は「触感温度」で、意味は「触感温度小」です。

雨が冷たい。 (「冷たい」はp.15参照)

「雨」は「触感温度」を持ちますから適合主語です。また、名詞を修飾して「冷たい雨」とも言えます。



図U05-1 雨が冷たい

【「多い」の必要要素】

一方、形容詞「多い」の必要要素は「(a)ある時か場における(b)事物の数量」で、単なる「数量」ではありません。意味は「その数量大」です。

「冷たい」と違い、「多い」の必要要素には「数量」だけではなく、未確定の要素が(a)(b)2つあります。いま、(a)を「日本」、(b)を「雨」とすれば、この文ができます。

(a)日本は(b)雨が多い。

「日本」:本主体 「雨」:属性主体

この例では、「日本」における「雨」の「数量」が大であることが示されています。

(a)(b)のどちらかを欠く場合は、質問したくなります。

(a)時・場を欠く場合 「雨が多い」 「どこに/いつ」と質問したくなります。

(b)事物を欠く場合 「日本は多い」 「何が」と質問したくなります。

名詞の修飾では、時・場を修飾するのが自然で、事物の修飾はまれです。

(時・場)の「日本」を修飾 「雨が多い日本」

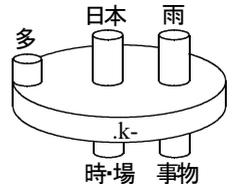
事物の「雨」を修飾 「日本が多い雨」

つまり、「多い雨が降った」の「多い雨」が不自然なのは、未確定の要素が2つある「多い」で、(時・場なしに)事物を修飾しているからであるといえます。

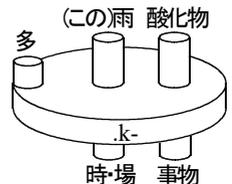
(「酸化物が多い雨」なら自然です。(a)時・場が「(この)雨」で、(b)事物が「酸化物」であり、事物を伴い、時・場を修飾しているからです。) (pp.60-61, 問U5-5も参照)

【学習者の誤用】

日本語母語話者は「多い」の必要要素が2つの未確定な要素を持つことを直感的に了解しているので、「多い雨」とは言いませんが、学習者は「冷たい雨」と同じように考えて「多い雨が降る」と言いやすいです。



図U05-2 日本のは雨が多い



図U05-3 酸化物が多い雨

コラムU6

集合は私の家ありがたい。

この文は「集合」と「私の家」の2つが「ありがたい」の主語になっている二重主語の文のようですが、5種類の複主体のいずれにも属さないように思われます。

- (1) 本属複主体 例:「象は鼻が長い。」
- (2) 因果複主体 例:「冬は水が冷たい。」
- (3) 感覚複主体 例:「私は昔が懐かしい。」
- (4) 時場複主体 例:「彼は午後が忙しい。」
- (5) 数量複主体 例:「車は3台が新しい。」

どのように考えればよいのでしょうか。

「ありがたい」と感じるのは「私(一人称)」です。ということなら、この文に「私」を補うことができます(本書p.47参照)。

(私は) 集合は私の家ありがたい。

「私は……ありがたい」ということになれば、上の(3)感覚複主体のようです。ということは「ありがたい」と感じさせるのが「集合は私の家」ということになります。

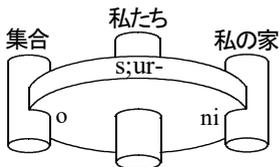
私は 集合は私の家が ありがたい。

つまり、感覚主体が「私」で、帯感主体が「集合は私の家」ということになります。

感覚主体……「私」

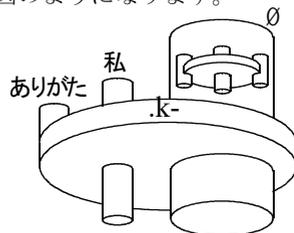
帯感主体……「集合は私の家」

ということは、「集合は私の家」というのは「うなぎ文」(S1.10)のような省略された表現なのでした。これの元の文はたとえば「私たちの \emptyset は私の家に集合(を)する。」のように考えることができます。構造は下左図のようになります。



私たちの \emptyset は私の家に集合(を)する

図U6-1 集合 \emptyset をは私の家



図U6-2 [集合は私の家]がありがたい.k-

この構造が \emptyset の包含実体で名詞になって感覚複主体の帯感主体となったわけです(上右図)。とすれば、初めにそのように思われた、「集合」と「私の家」が「ありがたい」の二重主語ではなかったのです。文中に表れていない「私」と、省略された表現の「集合は私の家」とが「ありがたい」の二重主語なのでした。